

IV 研修・業績発表

1 学会・研究会及び会議への出席 (H20.4~H22.3)

年月日	学会等の名称	開催地	出席者数
H20. 4. 18	GLP 研修会	当所	17
4. 25	アジレント食品分析技術セミナー	東京	1
5. 16	日本食品衛生学会学術講演会	東京	2
5. 23	食品安全行政講習会	東京	1
6. 7	AOAC インターナショナル日本シンポジウム	東京	1
5. 30	分析技術研修会	前橋市	1
6. 7	SIMADZU フォーラム	前橋市	3
6. 25	LAMP 法スキルアップ講座	東京	1
8. 1	信頼性確保部門責任者等研修会	東京	1
7. 3	国際バイオフィォーラム	東京	1
9. 5	分析展	千葉市	1
9. 18	日本食品衛生学会学術講演会	神戸市	1
10. 3	日本食品衛生学会特別シンポジウム	東京	1
10. 6	FT-IR・ラマン技術セミナー	横浜市	1
11. 12	日本食品微生物学会学術総会	広島市	1
11. 13	全国衛生化学技術協議会年会	佐賀市	3
11. 13	LCMSMS ユーザーセミナー	東京	1
11. 26	微生物検査フォーラム	東京	1
11. 28	食品安全フォーラム	東京	1
H21. 1. 26	指定薬物分析・鑑定に関する研修会	東京	1
2. 6	地研全国協議会関東甲信静ブロック専門家会議 (理化学部門)	高崎市	11
2. 10	厚生労働科学研究シンポジウム	東京	1
2. 13	地研全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会	さいたま市	2
2. 19	地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会	横浜市	1
3. 24	エピカニ検査技術講演会	さいたま市	1
3. 24	液体クロマトグラフィー研究懇談会	野田市	2
4. 15	日本ウォーターズ 食品安全性試験セミナー	東京	2
4. 21	GLP 研修会	当所	16
4. 23	アジレント LSCA エグゼクティブセミナー	東京	1
5. 14	SIMADZU メンテナンス講習会	さいたま市	1
5. 27	バリアン Bond Elut 30 周年サンプル前処理セミナー	東京	1
6. 4	食品安全行政講習会	東京	1
6. 18	食品安全を支える微生物試験の精度管理	東京	1
6. 18	サーモフィッシャーサイエンティフィック食品分析レベルアップセミナー	東京	1
7. 16	メルク・マイクロバイオロジーセミナー	東京	1
7. 15	バリアン Food Safety セミナー	東京	2
8. 24	信頼性確保部門責任者等研修会	東京	1
8. 28	全国食品衛生監視員協議会関東ブロック研修大会	甲府市	1
9. 4	分析展	千葉市	1
10. 1	残留農薬分析研究会	松江市	1

10. 8	日本食品衛生学会学術講演会	函館市	1
10. 15	ミリポア技術講習会	高崎市	1
10. 19	日本食品微生物学会学術総会	東京	1
11. 12	全国衛生化学技術協議会年会	盛岡市	3
11. 13	全国食品衛生監視員協議会全国大会	東京	1
H22. 1. 27	食品衛生検査セミナー	高崎市	1
1. 29	日本食品衛生学会特別シンポジウム	東京	1
1. 15	地研全国協議会関東甲信静ブロック専門家会議（理化学部門）	宇都宮市	1
1. 20	LCMSMS オペレーション基礎研修	東京	1
1. 22	厚生労働省指定薬物分析研修	東京	2
2. 4	地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会	前橋市	2
2. 12	厚生労働科学研究シンポジウム	東京	1
2. 18	食品分析セミナー	高崎市	1
2. 19	地研全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会	千葉市	1
2. 24	SIMADZU LC Solution 操作講習会	東京	1
3. 2	厚生労働科学研究シンポジウム	東京	1
3. 16	GCMS オペレーション・メンテナンス基礎研修	横浜市	1

2 紙上・学会等での発表

学会・研修会等

食品検査における違反事例について(平成15年～20年): 関慎太郎、阿久沢孝文、小山 孝、群馬県衛生環境研究所業績発表会、2008

当センターが設置されてから平成21年1月末までに実施した検査検体数は、10,746検体である。内訳は、食品添加物検査4,017、残留農薬検査1,812、微生物検査2,460、アレルギー検査274、医薬品等検査88、健康食品中の医薬品成分検査230、家庭用品等検査289、及びその他1,576である。以下各検査項目に関する違反について報告する。

農産物中の残留農薬検査結果: 加藤哲史、柴田雪乃、木暮昭二、小澤 茂、武井文子、群馬県衛生環境研究所業績発表会、2008

農薬等の残留基準の新たな制度として、ポジティブリスト制度が平成18年5月29日から施行された。これにより食品毎に799項目の農薬等の基準値が設けられたことから、食品安全検査センターでは検査農薬項目数の拡大を図ってきた。当センターが実施する残留農薬検査は、

群馬県農薬適正使用条例に基づく県内産農産物の出荷前段階（条例検査）、食品衛生法に基づく加工、流通、小売段階（収去検査）、県独自に行う消費者の視点を取り入れた、県内小売段階（試買検査）の三段階により、農産物等采取し実施している。また、生産段階においてはこれらの検査結果に基づいて、農政部技術支援課により現地調査及び指導が実施されている。今回は平成18～19年度の2年間について、検査結果及び現地での調査結果をとりまとめたので報告する。

加工食品中のアレルギー特定原材料の検査について: 永井みゆき、小澤 茂、小山 孝、群馬県衛生環境研究所業績発表会、2009

わが国における食物アレルギーの有病率は全年齢を通して推定1～2%と考えられているが、時には重篤な症状を引き起こし、命に係わる危険があり注意を要する。

平成14年11月に表示義務のある特定原材料5品目を含む食品の検査法が厚生労働省から通

知されたことから、当センターでは、平成 15 年度から検査を開始し、平成 21 年度までに県内に流通する加工食品 508 検体について検査を実施した。

また、平成 21 年 1 月にえび、かきの検査法が通知され、平成 22 年 6 月には義務表示移行への経過措置が終了することから、食品安全検査センターでも平成 22 年度からえび、かきの収去検査が開始されることとなった。今回、標準作業書（SOP）の改訂について検討し、予備試験を実施したので報告する。

いわゆる健康食品からの医薬品成分検出事例について：茂木芳美、赤上直人、群馬県衛生環境研究所業績発表会、2009

インターネットの拡大によって通信販売や個人輸入が手軽にできるようになり、現在では様々なところから簡単に健康食品を入手できるようになった。

しかし、一部には医薬品として使用されている成分が配合された製品が流通しており、これらの摂取による死亡例や重篤な健康被害が報告されている。

本県では、このような健康被害の発生を未然に防止するため、健康食品中の医薬品成分の試買検査を実施している。

今回は、平成 20 年度年間計画に基づいた試買検査における医薬品成分検出事例について報告する。